

令和6年12月17日
株式会社オリエンタルコンサルタンツ
代表取締役社長 野崎 秀則

「土木学会デザイン賞 2024 優秀賞」をダブル受賞 「有明筑後川大橋・有明早津江川大橋」及び「ハッ場ダム」

株式会社オリエンタルコンサルタンツ（本社：東京都渋谷区、代表取締役社長：野崎秀則）がデザインと設計に関わった有明筑後川大橋・有明早津江川大橋及び、ハッ場ダム（当社対象：ハッ場もみじ橋）が、このたび土木学会デザイン賞 2024 優秀賞を受賞いたしました。

土木学会デザイン賞は、公益社団法人土木学会景観・デザイン委員会が主催する顕彰制度です。公募対象を広く土木構造物や公共的な空間に求め、計画や設計技術、制度の活用、組織活動の創意工夫によって周辺環境や地域と一体となった景観の創造や保全を実現した作品およびそれらの実現に貢献した関係者や関係組織の顕彰を行っています。

当社は、今後もデザインと地域振興とが両立する良質な公共空間創出を目指し、国内外で社会に貢献する様々な事業展開を積極的に進めてまいります。

＜本資料に関するお問い合わせ先＞
株式会社オリエンタルコンサルタンツ
TEL:03-6311-7551 FAX:03-6311-8011
URL: <https://www.oriconsul.com/>
統括本部 伊藤、丸山、門司

有明筑後川大橋・有明早津江川大橋

- 受賞対象名：有明筑後川大橋・有明早津江川大橋
- 事業主体名：国土交通省九州地方整備局有明海沿岸国道事務所
- 当社の役割：2橋のデザインコンセプト策定、橋梁デザイン(株長大と協働)、有明筑後川大橋の詳細設計、有明早津江川大橋の予備設計
- 概要：有明筑後川大橋(以降、筑後川大橋)は、選奨土木遺産ランクA のデ・レイケ導流堤を跨ぐ国内初の2連の鋼単弦中路アーチ橋、有明早津江川大橋(以降、早津江川大橋)は、国史跡で世界遺産三重津海軍所跡構成遺産の緩衝地帯を跨ぐ長大支間の桁橋と、曲線・斜角を有する渡河部の鋼単弦中路式アーチ橋の連続橋であり、共に有明海沿岸道路の道路橋である。川の流れてつくられた雄大な風景の中で、国指定重要文化財の筑後川昇開橋等と一体的に見られるため、「昇開橋、デ・レイケ導流堤、三重津海軍所跡をはじめとする既存施設に寄り添い、景観資源との調和を図りながらも洗練された質の高い橋」を2橋共通のコンセプトとした兄弟橋である。歴史遺産との関わりと、難易度が高い有明海の超軟弱地盤地帯の橋梁としての橋種選定・橋梁計画・デザインの質を担保するため、2橋の検討・議論体制として設計検討委員会を設立し、また、熊本大学星野准教授を座長とする景観WGを設計コンサル2社と立ち上げ、委員会と合意を図りながら進めた。
「横への広がり感」、「歴史遺産への配慮」、「2橋を含む地域全体の一体感・統一感」に特に留意し、2橋は渡河部を張出の大きいブラケットによる軽やかな上部工とし、またアプローチ部までフェイスラインを連続させた。一方、周辺景観や歴史遺産との関係を個性と捉え、筑後川大橋は2連アーチのシルエットを強調する台形断面アーチリブとクロス配置の吊材、筑後川になじむ淡い桜色とした。早津江川大橋は曲線橋の美しい線形を活かす多角形断面アーチリブと鉛直吊材、緑地空間になじむ裏葉色とし、2橋は強調しすぎることなくそれぞれの個性を活かして、地域の景観の質を高めた。
導流堤が一部解体に伴う調査・記録と地上2か所への移設展示、三重津海軍所跡が工事後に架橋エリアの国史跡追加指定の文化庁文化審議会答申を受ける等、歴史遺産の保全・活用を地域に広げた文化的事業といえる。
- 主な関係者や関係組織、講評等：<https://design-prize.sakura.ne.jp/archives/result/2602>



有明筑後川大橋



有明早津江川大橋

ハッ場ダム

- 受賞対象名：ハッ場ダム
- 事業主体名：建設当時/国土交通省関東地方整備局ハッ場ダム工事事務所
現在/国土交通省関東地方整備局利根川ダム統合管理事務所
- 当社の役割：減勢工橋梁（現 ハッ場もみじ橋）の形式選定、デザイン検討、詳細設計
- 概要：ハッ場ダムは利根川の支流、一級河川吾妻川に首都圏を含む利根川下流部への洪水調節や水道及び工業用水の補給、吾妻川の流水の正常な機能の維持と増進、発電を目的とする多目的ダムである。昭和22年のカスリーン台風の大被害を契機に、洪水調節による下流部洪水被害の軽減と首都圏の水資源開発を目的として計画された。その後、昭和45年から建設事業が着手され、水源地域の生活再建に取り組ながら68年の事業期間を経て、令和2年に事業が完了した。吾妻川のハッ場ダムの建設地には名勝吾妻峡（昭和10年に国指定）が存在し、影響がおよぶ可能性があった。代表的な景勝地の八丁暗がりには、溪谷右岸に遊歩道があり、新緑や紅葉の時期には多くの人々が訪れる。当初、ダム建設地は八丁暗がりの中心に位置し、吾妻峡に大きな影響を与える位置にあった。文化庁と協議の結果、ダム建設地を上流へ約600m 上流へ移動し、八丁暗がりを含む名勝指定区間の3/4の区間を現状のまま保存するとともに、改変される地形、景観、周遊路に対する配慮、景観設計、名勝の溪流における流水の正常な維持、保存管理体制、ダム完成後の体制の構築といった配慮事項を検討・実施することで吾妻峡への影響を低減し建設することとなった。文化庁の協議を受け、配慮事項についてハッ場ダム環境デザイン検討委員会を設け、検討し、ダムのデザインへ反映した。具体的にはシンメトリーを基本とするダム堤体形状や建屋高さの抑制など堤体以外の景観影響を極力低減するデザインや名勝の本質的価値を損なわず周遊できる動線のデザインを実現した。加えて、ダム管理上の機能と地域資源価値向上を両立するために一般開放を考慮した減勢工橋梁やエレベータ、管理棟、苑地等をデザインし、実現した。その結果、年間2万人以上が訪れる有力な地域資源となり、ダムの役割を広く伝える場である共に、地域の担い手による地域活性化の場として地域に貢献している。
- 主な関係者や関係組織、講評等：<https://design-prize.sakura.ne.jp/archives/result/2604>

